

朝、廊下で出会った5年生の男の子に「おはよう！」とあいさつしたら、「ございます」と返ってきた。元気よくあいさつしすぎてしまったのか、「おはようございます」と言いなさい！という注意だったのか、同時に声を発したため、「ございます」しか聞こえなかったのかそれは本人に聞いてみないとわからない▼聞いてみないとわからないことはたくさんある。当事者でない人に聞くと、話のニュアンスがかわったりする。当事者であっても、自分に都合の悪いことは省略することもある。学校でよく起こるのは、「言った言ってない」「やったやってない」「きっかけがなんであったのかわからない」つまり話が合わない時である▼人には、「無意識」という存在がある。それは、思い出そうとしても思い出せない。その結果不毛な堂々巡りが起きる▼阿下喜小学校の学級だよりが、「子どもたちへのラブレター」として定着してきた。その文章はあふれんばかりの愛が込められている。子どもの事実を取り上げ、価値づけをして勇気づける。そして、担任の気持ちが添えられる。▼価値づけられた事実は、望ましい行動として認知され、勇気づけられた事実は、前に進む意欲につながる。そなたよりが2週間に1回子どもに渡される▼来週で2学期が終わる。笑顔で過ごしましょう！で始まった2学期。終業式には、「どうでしたか？」と振り返りたい。